



**第29回 アイデア対決・全国高等専門学校
ロボットコンテスト 2016**

■ルールブック■
(8月8日改定版)

全国高等専門学校ロボットコンテスト実行委員会
競技委員会

望む 遊び心ある自在な発想を

世界的な大企業 本田技研工業(株)には、アイディアコンテスト(アイコン)という創造的な遊び心を育てる伝統がありました。折り畳み式バイクがその初回(1970年)で優勝しましたが、創業者の本田宗一郎さんは「誰が明日売れるような物を作れと言ったのか! 我らが社員全員に大きな夢を見て欲しいからやっているのに!!」と怒り出されてしまったのでした。

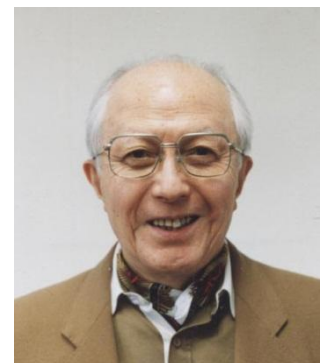
それで第2回目からは、四角形や三角形の車輪の自転車、さらには、車軸のない自転車までが登場し、アイコンは痛快極まりない面白い行事に発展したのです。

そこで本田宗一郎さんは「良くなってきた、面白いだろう、今後も続けたいな。だけどそれには金が要る。だから車を作って金を稼ごうやな」と全社員に向かって宣言されたのでした。

金儲けのためにではなく、アイデアを出す創造的遊びのために働くという論理です。

ロボコンも同様で、勝負に勝つことなどは二の次です。創造的アイデアがひらめいた瞬間の飛び上がるような感激——それは大げさですが、ビッグバンを^{かいびやく}開闢させた大宇宙の働きの現れなのです。それを育てようとするのが、ロボコンの理念であり、最高の賞、ロボコン大賞が設けられた意義でもあります。

どうか皆さん、このことを心の底に据えてロボコンに参加されるよう望んでいます。



東京工業大学名誉教授
森 政弘

※アイディアコンテスト(アイコン)は、
1970年~1993年の間で13回開催されました。

高専ロボコン 2016 ルールブック目次

■はじめに	1
■競技の概要	2
■競技課題・規程	
I. 大会形式	3
I-1 参加資格・チームの構成	
I-2 地区大会	
I-3 全国大会	
I-4 審査員・審判団	
II. 競技環境	5
III. 競技の内容	7
III-1 競技課題の進行	
III-2 競技課題の終了と勝敗	
III-3 リトライ	
III-4 「海」について	
III-5 反則行為と失格	
III-6 緊急時の競技中断	
III-7 競技の延伸	
IV. ロボット	11
IV-1 参加できるロボット	
IV-2 ロボットの大きさ・重量・エネルギー制限	
IV-3 ロボットの移動方法	
IV-4 ロボットのコントロール	
IV-5 計量計測・安全対策チェック・テストラン	
V. 競技に使用する道具	13
VI. 安全対策	14
VI-1 安全管理責任者の役割	
VI-2 ロボットの設計での安全対策	
VI-3 ロボット製作作業中の安全対策	
VI-4 大会開催中の安全対策	
VII. ルールの修正・追加	15
VIII. 今後の予定および提出物の締め切り	16
VIII-1 年間スケジュール	
VIII-2 「アイデアシート」の提出	
VIII-3 質問の受付・ロボコン事務局からの連絡	

はじめに

「安全」は最優先の課題です。

高専生の皆さんはもちろん、
会場に来られる観客の方々にとっても「安全」なロボットを目指して下さい。
「安全」に気を配るのは、大会本番だけではありません。
製作過程や練習など、あらゆる場面に危険は潜んでいます。
いつのときでも「安全」に留意することを忘れないで下さい。

「安全」のためには「正しい知識」が必要です。

高専ロボコンは技術者を育む教育イベントです。
皆さんは工作機械を「安全」に使うために、正しい使い方を学んだはずですが。
ロボットを作り上げるときにも「正しい知識」を自ら学んで下さい。
バッテリーの使い方とは？ 高圧ガスの扱い方とは？
無線に必要な知識とは？ 回路作りに必要な知識とは？
中にはまだ授業で教わっていないこともあるでしょう。
そんなときは先生方や先輩にどんどん聞いて下さい。
そうして培われた「正しい知識」は、
ロボット製作だけでなく、「安全」にも必ず繋がっていきます。

「高専ロボコン 2016」を盛り上げられるのは、
こうしたことを実践できる高専生の皆さん、
そして皆さんが作り上げたロボットなのです。

競技の概要

■競技課題名：『ロボット・ニューフロンティア』

■概要

今年の競技はロボットによる「新大陸開拓」です。

みなさんは「探検家」として新大陸を目指します。待ち受ける障害をロボットで乗り越え、新大陸を開拓した証としてブロックを積み上げ「砦」を築き上げます。

この競技課題には、大きく2つのポイントがあります。

フィールドには自由に使えるツール・「船」が置かれています。

これは過去の高専ロボコンでも類のないケースです。

1つめは、この「船」をどう使いこなすのか、という点です。

そして2つめは、ロボットの台数および展開サイズに制限がない、という点です。

高専ロボコン最大の魅力は「アイデア対決」であることです。

これまでの常識にとらわれない、みなさんのフロンティアスピリットを披露してください。

高専ロボコンの第1回大会が開催された28年前には、ロボットは一部の大学や研究所にしかありませんでした。しかし、今やロボットは私たちの生活の中に入り込む身近な存在になっています。ロボットの新時代を切り開く、驚くようなアイデアを待っています！

また、みどころとしてみなさんが自作する「シンボル」を競技で使用します。郷土愛の溢れる「シンボル」を楽しみにしています。

競技課題・規程

I. 大会形式

I-1 参加資格・チームの構成

① 1チームの構成

高等専門学校生3名（チームメンバー）と指導教員1名の計4名とする。

② チームリーダー

チームメンバーのうち、1名をチームリーダーとする。

「エントリー」の際にチームリーダーを登録すること。

指導教員は競技に参加できない。

③ ピットクルー

各チームはピットクルー（学生）と協力して、ロボットの準備を行うことができる。

地区大会でのピットクルーの人数は、各地区の競技委員長が定める。

全国大会は5名以内とする。

④ 安全管理責任者

チームメンバーまたはピットクルーのうち、チームリーダー以外の上級生1名を安全管理責任者とする。

I-2 地区大会

北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中国、四国、九州沖縄の8地区に分かれて開催。（日程・会場は「参加要項」参照）

① 参加チーム : 各高専・各キャンパスから2チーム。

② 対戦方式 : トーナメント対戦方式とする。詳細については競技委員会が定める。

③ 表彰

優勝、準優勝

アイデア賞 : 他に類を見ない独創的なアイデアを実現させたチームに贈られる賞。

技術賞 : ロボットの技術的な完成度が高かったチームに贈られる賞。

デザイン賞 : 機能的な美しさや装飾に秀でたロボットを作ったチームに贈られる賞。

他、協賛団体による「特別賞」・「奨励賞」がある。

④ 全国大会への出場

「優勝チーム」、「審査員推薦チーム」および「競技委員会推薦チーム」。

審査員推薦チームは、競技の勝敗だけではなく、

競技課題の趣旨を反映したアイデアが実現されていたかどうかを審査し、総合的に行う。

競技委員会推薦チームは全国大会へ出場できなかったチームの中から、

地区大会において素晴らしいパフォーマンスを発揮した、

全国大会出場にふさわしい1チームを競技委員会が選出する。

該当チームがいないと判断した時は選出されない場合もある。

I-3 全国大会

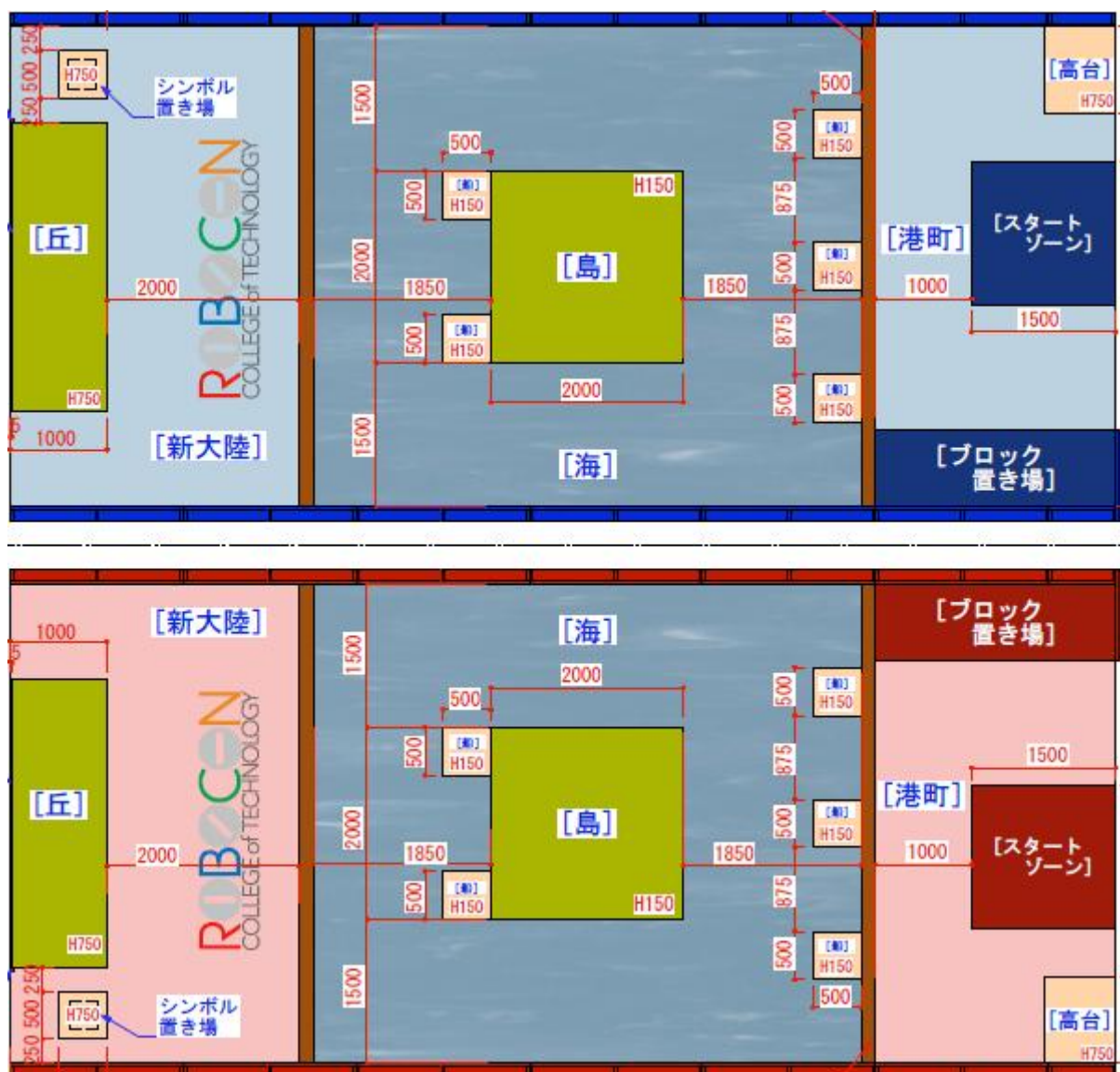
- ① 参加チーム：地区大会の「優勝チーム」と「審査員推薦チーム」、「競技委員会推薦チーム」の最大 26 チームとする。
各地区の出場枠：() はチーム数
北海道 (2)、東北 (3)、 関東甲信越 (4)、東海北陸 (4)、近畿 (3)、中国 (3)、
四国 (2)、九州沖縄 (4)、競技委員会推薦チーム (1)
- ② 対戦方式：トーナメント対戦方式とする。
- ③ 表彰：地区大会の表彰に加え、下記の賞を設ける。
ロボコン大賞 : アイデア・技術・デザイン全てにおいて
優れたロボットを製作したチームに対して贈られる最も栄誉ある賞。
アイデア倒れ賞：アイデアは優れているが、その真価を発揮できなかったチーム
に贈られる賞。

I-4 審査員・審判団

- ① 地区大会
 - a) 審査員：3 名。全国大会出場チームの推薦、各賞の選定、競技終了時に勝敗が決定しない場合の判定を行う。
 - b) 審判団：主審 1 名と副審 2 名。競技の判定はすべて審判団が行う。
- ② 全国大会：別途定める。

II. 競技環境

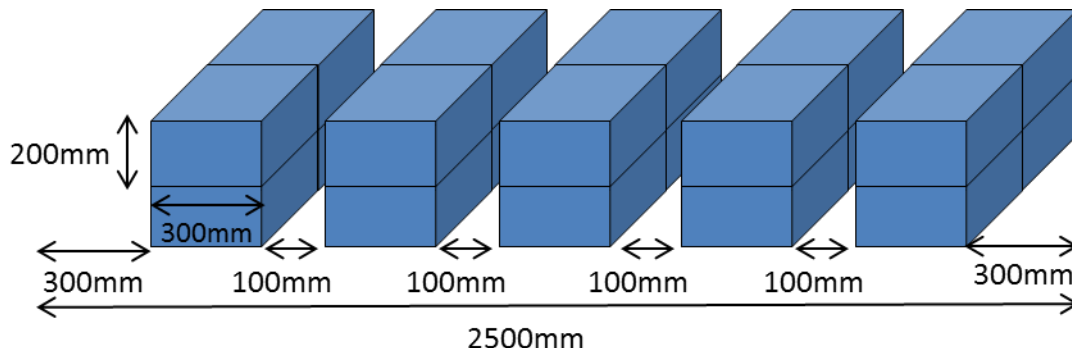
■ 詳細な寸法や仕様は図面を参照



- 競技中、チームメンバーはフィールド内およびフィールド外において相手チーム側に入ってはならない。
- 床材は「ロンシール工業・シックハウス対策床材・ロンリウム」を使用する。
つなぎ目は表面つや消しビニールテープ（50mm幅）で貼り合わせる。
- 「高台」の側面と上面、「丘」の側面と背面パネルは塩ビシートを貼り付ける。
「船」表面の木材には塗装を施す。
- フィールドの装飾が変わる可能性がある。また「シンボル置き場」や丘に取り付けられる「計測棒」に電飾を追加する可能性がある（サイズは変わらない）
- 全国大会の際、競技フィールドはおよそ 120mm の台上げがされる。

<港町>

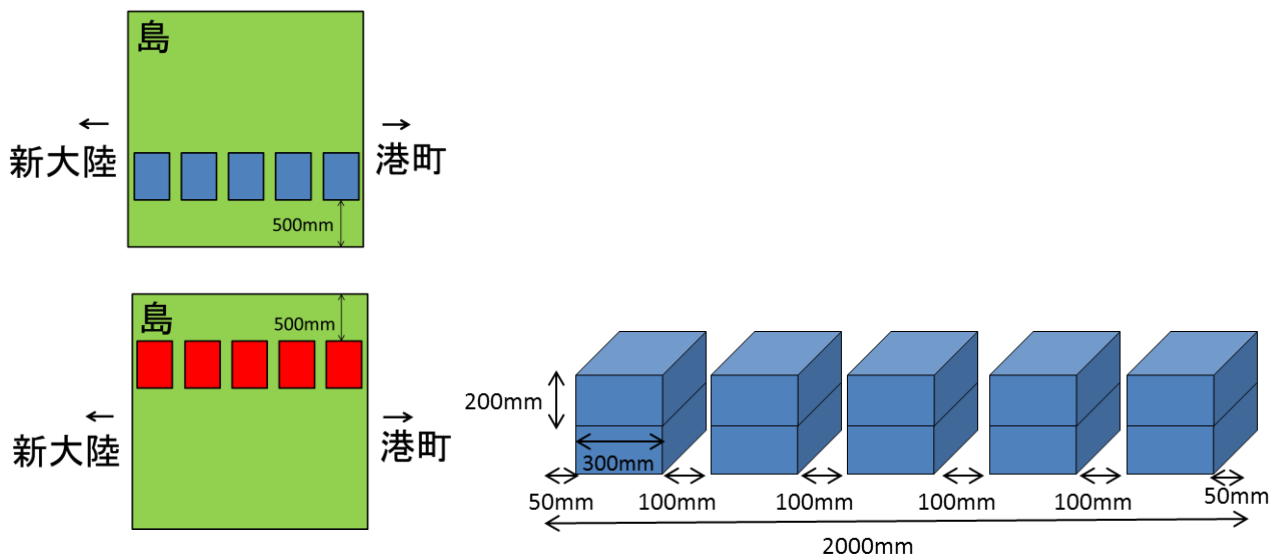
- ◆ スタートゾーン : セッティングタイム終了後、スタートの合図があるまでロボットはこのゾーンから上空を含めて出てはならない。
- ◆ ブロック置き場 : ブロック 20 個が下図のように置かれている。
- ◆ 高台 : ブロックを積み上げて「灯台」を完成させる場所。



図：港町の「ブロック置き場」でのブロックの置き方

<海> ロボットは接地してはならない。

- ◆ 船 : 下部にキャスターが取り付けられている。ロボットは接地しても良い。利用するかどうかは自由とする。
- ◆ 島 : ブロックが 10 個置かれている。ロボットは接地しても良い。
- ◆ 角材 : 150mm × 150mm × 長さ 5000mm の角材が固定してある。



図：島のブロックの置き方（上：青ゾーン 下：赤ゾーン）

<新大陸>

- ◆ 丘 : ブロックを積み上げて「砦」を完成させる場所。
- ◆ 計測棒 : 丘に積み上げたブロックの高さを目視確認するために設置する。
- ◆ シンボル置き場 : 自作の「シンボル」を置く場所。

Ⅲ. 競技の内容

Ⅲ-1 競技課題の進行

① ロボットの運び込み

チームメンバー3名とピットクルーがロボットをスタートゾーンに運び込む。
チームメンバーはスタートゾーン付近で整列する。

② セッティング

主審の合図でセッティング開始。時間は1分間。ピットクルーも参加可能。

a) ロボットのセッティング

ロボットはセッティングタイム終了時には、上空も含めてスタートゾーンを出てはならない。

待機中、ゴム、バネ、圧縮空気などエネルギーを蓄えた状態になっていても良い。

※圧縮空気は各会場の指定された場所で充填すること。

b) 「船」のセッティング

「船」は以下の条件を満たせば位置を変えることができる。

- ・ 「船」は「海」に車輪が接地した状態であること。
- ・ 「船」の1辺が全て、それぞれ下記の場所に接地していること。

「港町」側の船

「港町」と「海」の間にある（図1の黄色ライン）

「島」側の船

もともと船が接地している「島」の辺（図1の紫色ライン）

c) 「シンボル」のセッティング

自作の「シンボル」を「シンボル置き場」に置く。

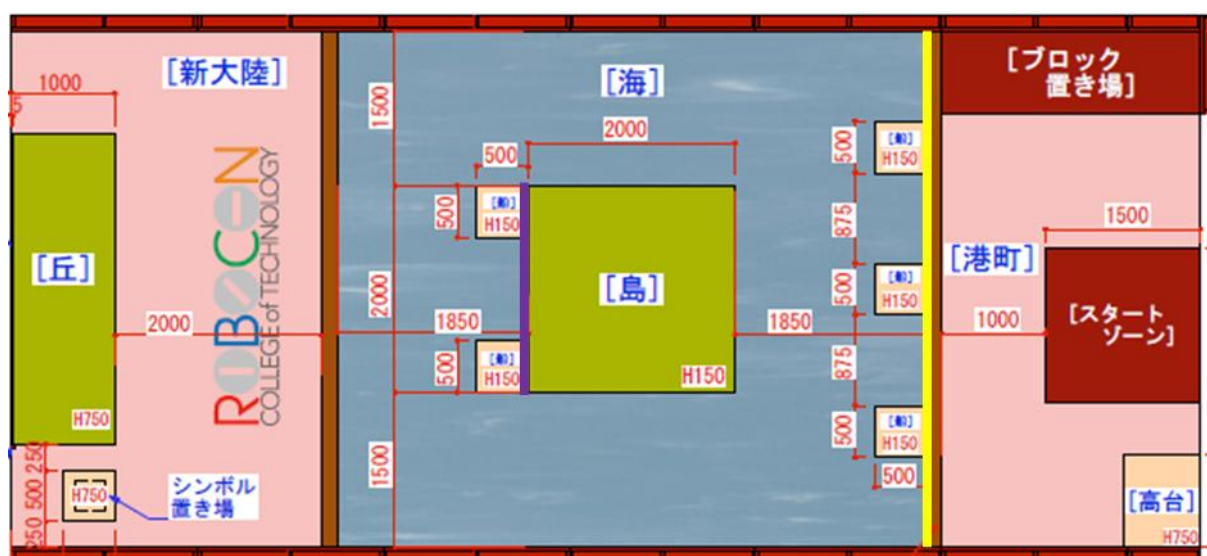


図1：「船」を動かせる範囲

③競技のスタート

スタートの合図で競技開始。競技時間は3分間。

ロボットは「ブロック」に触れることができる。

※スタートの合図までにセッティングが終了しない場合は、スタートの合図後にチームメンバー3名でセッティングを継続することができる。(ピットクルーは参加不可)。

④「灯台」を完成させる

「ブロック置き場」に置かれているブロックを利用して、

「高台」に、1段目はブロック2個、2段目と3段目はブロック1個を積み上げる(図2)。

積み方は自由。

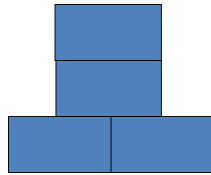


図2:「高台」への積み上げ方 例

⑤「砦」を完成させる

a) 「灯台」を完成させたら

「丘」の上にブロックを積み上げることができる。

b) 「丘」にブロックを積み上げる際、「港町」から見たときに、

下の段の幅より上の段の幅が小さくなるように積み上げること(図3)。

c) 積み上げたブロックに「シンボル」を乗せたら「砦」完成と認められる。

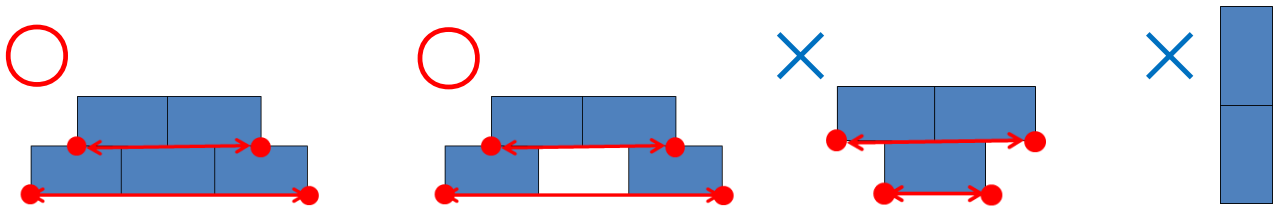


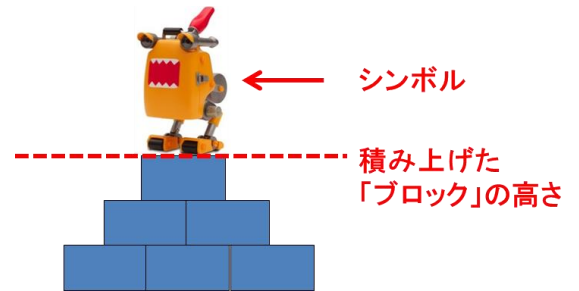
図3:「丘」への積み上げ方 例

III-2 競技の終了と勝敗

a) 両チーム「砦」を完成した場合

相手より高くブロックを「丘」に積み上げたチームの勝利。

積み上げたブロックの高さは、「シンボル」が置かれているブロックの上面の高さ（図4）とする。



b) 片方のみ「砦」を完成した場合

「砦」を完成したチームの勝利。

c) 両チームとも「砦」を完成できなかった場合

「丘」に積み上げた

ブロックの高さが高いチームの勝利。

両チームとも同じ高さの場合は審査員判定とする。

図4：丘に積み上げたブロックの高さ

III-3 リトライ

- ・ ロボットが故障や不具合で競技続行不可能となった場合のみ、チームメンバーは審判に対してリトライを宣言することができる。
- ・ リトライが認められたら、20秒間は再スタートすることができない。
- ・ チームメンバーは審判の指示に従って全てのロボットの非常停止スイッチを押しロボットを停止させてから、その場でロボットの調整を行うことができる。
- ・ 再スタートの準備ができたなら審判に伝え、審判の合図を受けたら競技を再開できる。

III-4 「海」について

a) ロボットが「海」に接地した場合

全てのロボットの非常停止スイッチを押して停止させる。

その後、審判の指示に従って「海」に接地したロボットが最後に接地していた場所（港町、島、新大陸のいずれか）まで、「海」に接地したロボットを運んで再スタートをする。

b) ブロックが「海」に接地した場合

接地したブロックは「高台」「丘」に積み上げることができない。

III-5 反則行為と失格

- 反則行為があったロボットは、審判の指示に従い停止する。
- 失格行為と審判が判断した場合は、その時点で相手チームの勝利とする。

① 反則行為

- a) 審判の指示に従わない行為。
- b) ロボットやチームメンバーのフライング。
フライングが起きた場合は審判の指示により再スタートとする。
- c) スタートゾーン外でチームメンバーやピットクルーが審判の許可を得ず、ロボットに触れた場合。
- d) 競技フィールドを破損、汚染した場合。
- e) ルールブック、FAQの規定に違反する行為。
- f) ロボットが相手チームの競技フィールドに上空を含めて侵入した場合。

② 失格

- a) 故意による相手ロボットへの接触・破壊。
- b) 故意による競技フィールドの破壊。
- c) ルールブック、FAQの規定に違反する危険な行為。
- d) アイデアマンシップに反する行為。
- e) 1試合で5回の反則行為を起こした場合。
- f) 客席にロボットが入った場合。
- g) 安全上重大な問題が発生した場合。

III-6 緊急時の競技中断

以下の場合、競技を中断することがある。

- ① ロボットや競技者、観客に事故・怪我など重大な支障が生じた場合。
- ② 地震・火災などの緊急時。

III-7 競技の延伸

地区大会・全国大会とも準決勝・決勝は試合の間隔が短いため、ロボットにトラブルがあった場合以下の措置をとる。

ロボットに競技が行えない重度のトラブルが起こった場合、まずチームリーダーは審判に申告する。

審判団と競技委員会が認めた場合のみ、

予定されていた競技開始時間よりも最大15分までは延伸する。

15分経過後は競技を進行する。

IV. ロボット

IV-1 参加できるロボット

- ① 台数
自由。
- ② 装飾
ロボットの装飾には著作権が絡むキャラクターや音楽は使用しないこと。
- ③ 安全対策
ロボットがすべての動作中（誤操作、誤動作、破損時も含める）に、周りのすべての人（チームメンバー以外の第三者も含む）に危険が及ばないようにすること。
競技フィールドを破損しない性能・構造とすること。
- ④ 製作予算
大会に出場するロボットの構成部品のうち、新規調達する部品の購入額は 30 万円（消費税別）を超えてはならない。
ただし、コントローラーと無線モジュールは含まない。

IV-2 ロボットの大きさ・重量・エネルギー制限

- ① 大きさ
ロボットは装飾も含めてスタート時には縦 1500mm × 横 1500mm × 高さ 1500mm に収まっていること。スタート後のサイズは自由とする。
- ② 重量の制限
重量 40kg 以下とする。
ロボットを複数台用いる場合もロボットの総重量が制限以下となること。
ただし、コントローラーの重量は含まない。ペットボトルなどで圧縮された空気を使用する際は、空気を入れた状態でなくてもかまわない。
- ③ 電源の制限
ロボットに印加される電源の電圧は定格 24V 以下とする。
- ④ 電力以外の動力
高圧ガス（常温においてゲージ圧力が 1 メガパスカル以上）や爆発物など、危険なエネルギー源を用いてはならない。高圧ガスを貯める容器は、傷や形状の変形が見られない新しいものを用いること。また日頃の製作や練習段階から常に傷や形状の変化に注意すること。
- ⑤ 非常停止スイッチ
 - a) 仕様：黄色い土台に取り付けた赤い押しボタンとする。
(日本工業規格 JIS B 9703 に準拠することを推奨する。)
 - b) 位置：緊急時にチームメンバーや審判が速やかにロボットを停止できるように、第三者でも見つけやすく、かつ誰もが押しやすい位置に備えること。テストラン時、審判と競技委員会によるチェックを行い、安全上十分な機能を備えていない場合には出場を認めない。



IV-3 ロボットの移動方法

自由とする。

ただし、ロンリウムの貼られたフィールドを吸引する機構や吸盤の使用は禁止する。

またプロペラによる飛行も禁止する。

IV-4 ロボットのコントロール

① コントローラーを使用する場合、有線は不可とするが、有線以外の通信方式については制限しない。

ただし、無線で使用する無線モジュールは電波法に準拠していること。無線モジュールが電波法に準拠していることは、指導教員もしくは学内の専門教員に確認をとること。

② 大会受付時に通信方式ならびに周波数を申告し、大会前日の安全管理委員会で一覧を配布する。混信の可能性がある場合は、各チーム間で調整し設定すること。

③ 競技委員会では無線管理を行わない。

大会本番では携帯電話の電波や会場の照明など、会場内の様々な要因から通信障害等によりコントロールができない状況もありえるため、これらの影響に備えて準備すること。

(例えば2種類以上の通信手段を備えるなど — 例: 電波を用いた通信と赤外線通信のどちらでも操縦できる)

④ 移動させることができないコントローラー、画像認識のためのセンサーなどをフィールド内外に設置することは禁止する。

IV-5 計量計測・安全対策チェック・テストラン

① 計量計測・安全対策チェック

大会に出場するロボットは大会前日および当日の計量計測・安全対策チェックを受けること。

チェックを通過しない場合は大会に出場できない。

② テストラン

大会前日に行うテストランでロボットのすべての機能を披露すること。

テストランで披露していない機能は、大会で使用することはできない。

テストランに出ていないロボットは大会に出場できない。

V. 競技に使用する道具

①ブロック

大会では実行委員会が用意する。

サイズ：200mm × 300mm × 400mm

材 料：プラスチックダンボール（厚さ 4mm、密度 600g/m²）

重 さ：590g 前後。ブロックによっては誤差がある。

色 ：赤ゾーンは赤色、青ゾーンは青色を使用する。



図：「ブロック」の見本

- ・ 「寺岡製作所 ビニールテープNo.312 透明つや消し 50mm」を使用して貼り合わせる。
- ・ テープについての詳細は「フィールド上造作物 仕様図」を参照。（8/8 更新）
- ・ ブロックの詳細図面は「フィールド上造作物 仕様図」を参照。
- ・ 競技で使用するブロックと同じものを購入することが可能。注文方法は5月中旬に発表する。

②シンボル

各チームで自作したシンボルを用意すること。

サイズ：200mm × 300mm × 400mm より大きいこと。

重 量：500g～800g に収まること。

材 料：自由。

テーマ：「地元を象徴するもの」

ただし、既存のキャラクターは使用できない。

VI. 安全対策

後日「安全対策ガイド」を公表します。「ルールブック」同様に熟読の上、参加すること。

VI-1 安全管理責任者の役割

- ・ 安全管理責任者は、競技委員会に対して自チームの安全対策の説明を行う義務を負う。
- ・ 製作するロボットの安全性の確認に加え、ロボット製作期間やピットでの作業時にゴーグルを着用しているかなど、安全性に常に留意すること。
- ・ チームメンバー、ピットクルーは安全管理責任者の指示に従い、安全かつ適切な行動を取ること。

VI-2 ロボットの設計での安全対策

① バッテリー

電圧はIV-2-③「電源の制限」に準拠すること。

リチウムイオン系バッテリーなど高性能なバッテリーは不適切な取り扱いで発火・爆発の危険性があるため、充電・使用・運搬の安全には充分考慮すること。

② レーザー

クラス 1、2（クラス 1M、2M を除く）のレーザーを使用する限りにおいてのみ認める。

ただし、競技会場で、全ての人々の目にレーザー光線が当たらないよう、設計の段階から十分に注意を払うこと。

③ 空圧

IV-2-④「電力以外の動力」に準拠すること。

④ 無線

IV-4「ロボットのコントロール」の「無線」に関する記述に準拠すること。

⑤ 上記以外の危険事象に対しても安全を充分考慮したロボットを製作すること。

VI- 3 ロボット製作作業中の安全対策

- ① 各校の安全作業ガイドライン等を遵守すること。
- ② 指導教員の助言・確認をもらうこと。
- ③ 体調管理に注意し、過度な睡眠不足、極度に疲労した状態で作業、練習しないこと。
- ④ ロボット製作中のみならず、試運転、練習中、全てにおいて安全に留意すること。

VI- 4 大会開催中の安全対策

① 服装について

- ・ 腕や足を露出した服装で参加しないこと。
- ・ ロボットに巻き込まれる危険がある服装で参加しないこと。
例えば、スカート、長い髪を束ねずに参加するなど。
- ・ 競技中、チームメンバーはチームで用意したヘルメットとゴーグルを全員必ず着用すること。
- ・ ロボットに触れる、作業をする人は全員必ずゴーグルを着用すること。

② 競技中の安全対策

- ・ 競技中にロボットの不具合や暴走などが起きた時、チームメンバーは非常停止スイッチを押して停止させることを最優先とする。
- ・ 競技中の審判や相手チームメンバーの行動を考慮に入れたロボットの運用を心がけること。

③ 競技フィールド以外での安全対策

- ・ 大会会場は大会運営スタッフ、取材・番組スタッフ、各高専関係者で混雑するため、ピットスペースやロボット搬送時に危険がないよう配慮すること。
- ・ ピットに持ち込む工具棚の高さは 1m 以下とする。

VII. ルールの修正・追加

① 「ルールブック」は、競技の円滑な進行や安全確保のために変更されることがある。

② FAQ で発表される内容は必ず確認すること。

③ 競技フィールドは、会場環境や材料により、若干の誤差を含むものとする。
またデザインなどを変更する場合もある。

④ 全国大会の際、ルールを一部修正することがある。

VIII. 今後の予定および提出物の締め切り

VIII-1 年間スケジュール

日 程		項 目	備 考
4 月	26 日 (火) 29 日 (金)	・「ルールブック」の発表 ・ルール問い合わせ (質問) 受付開始	
5 月	上旬	・「競技コンセプト」発表 ・「参加要項」の発表	公式サイト掲載
	13 日 (金) 下旬	・ルール問い合わせ (質問) 第 1 回締切 ・第 1 回質問をまとめた「FAQ」発表 ・ルール問い合わせ (質問) 受付再開 ビデオ受付開始	各チーム 5 個まで 公式サイト掲載
6 月	24 日 (金)	・「アイデアシート」 「安全対策チェックシート」締切	
7 月	中旬	・アイデア確認結果打ち返し	
8 月	31 日 (水)	・「エントリーシート」「アイデアシート (最終版)」締切	
9 月	21 日 (水) ～順次	・「チーム紹介シート」「安全対策チェックシート」締切	各地区によって異なる ※枠外参照
10 月	2 日 (日)	・関東甲信越地区大会実施	
	9 日 (日)	・東海北陸、九州沖縄地区大会実施	
	16 日 (日)	・北海道、近畿地区大会実施	
	23 日 (日)	・東北、中国地区大会実施	
	30 日 (日)	・四国地区大会実施	
11 月	20 日 (日)	・全国大会実施	

※ 「チーム紹介シート」、「安全対策チェックシート」締切日

9 月 21 日 (水)	・ 関東甲信越地区大会 参加チーム
9 月 28 日 (水)	・ 東海北陸、九州沖縄地区大会 参加チーム
10 月 5 日 (水)	・ 北海道、近畿地区大会 参加チーム
10 月 12 日 (水)	・ 東北、中国地区大会 参加チーム
10 月 19 日 (水)	・ 四国地区大会 参加チーム

VIII-2 「アイデアシート」の提出

- ① 決められた期日までに、規定の「アイデアシート」に記入して提出すること。内容が不十分な場合は再提出となる。締め切りは本書「VIII. 今後の予定および提出物の締め切り」を参照すること。
- ② エントリー締め切りまでに、提出したアイデアに変更が生じた場合は、次のいずれかの方法で速やかにロボコン事務局に報告すること。
 - ・ 「アイデアシート」を再提出
 - ・ 写真や動画に説明を加えてメール連絡
- ③ エントリー締め切り以降のアイデア内容の変更は原則として認めない。
- ④ テストランの結果ルールに抵触する、もしくは安全対策に問題があると実行委員会が判断した場合はロボットの修正を求める。

VIII-3 質問の受付・ロボコン事務局からの連絡

- ① フィールド図面、FAQ、その他の連絡事項は公式サイトに掲載する。
ルールやアイデアの不明点は必ずFAQで確認すること。
- ② 競技に関する質問・問い合わせは 指導教員がメールで送ること。
文章で伝わりにくい質問は、写真・CAD図面・動画などを用いて詳しく伝えること。
特にロボットの動作についての質問は動画も併せて送ることを推奨する。
- ③ 質問は第1回締め切りを 5月13日（金） とし、1チームにつき 5個まで受付ける。
5月下旬のFAQの発表以降、改めて1チームにつき 5個まで質問を受付ける。
以降、ロボコン事務局から回答が来るまで次の質問はできない。

改定履歴

5月12日

- ・ 競技タイトル、競技コンセプトを変更しました。
- ・ P13 「ブロック」の詳細を追記、変更しました。
- ・ フィールドに使用するロンリウムの色を確定しました。

8月8日

- ・ ブロックの製作に使用するテープの種類を変更しました。